

科目名	環境工学 1							年度	2025
英語科目名	Architectural Environment Engineering 1							学期	前期
学科・学年	建築学科 2年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	藤原 正城	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
【科目の目的】									
・ 建築を計画するときは地球環境を考えることが重要だと理解できる ・ 太陽・風を生かした計画を理解できる ・ 都市や地域の環境的特性を理解できる									
【科目の概要】									
建築物は周辺の自然環境に応じたものでなければ持続可能な地球環境を守ることができない。光、空気、熱などの特性を知り、建築物の計画へ応用させるための基礎知識を学ぶ。									
【到達目標】									
A. 環境工学と建築の関係性が重要だと認識している B. 温熱環境をコントロールするための知識を持っている C. 太陽光を用いた室内空間がどのようなものか理解している D. 室内の快適性がどのようなものか理解している									
【授業の注意点】									
教科書・配布資料をよく理解し、予習・復習を行うこと。 なお、小テストが未提出のままでは、0点になる。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力				
到達目標 A	授業テーマの考え方・視点について深く理解している。		授業テーマの考え方・視点を持つことができる。		授業テーマの考え方・視点について理解が少ない。				
到達目標 B	質疑応答に積極的に参加している。		質疑応答に参加している。		質疑応答に参加してるとはいえない。				
到達目標 C	今までの設備と最新の設備の違いを明確に説明ができる。		今までの設備と最新の設備の違いを概要程度説明ができる。		今までの設備と最新の設備の違いを理解できない。				
到達目標 D	ネット・ゼロエネルギービル・ハウスの内容について自ら調べることができる。		ネット・ゼロエネルギービル・ハウスの内容についておおよそわかる。		ネット・ゼロエネルギービル・ハウスの内容について理解しようとする意欲が少ない。				
【教科書】									
「建築環境工学」 市ヶ谷出版社									
【参考資料】									
参考技術資料冊子、各省庁の省エネ関連ホームページ									
【成績の評価方法・評価基準】									
授業中に実施する小テストの内容、学期末に行う期末試験で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

